

あ お ば だ よ り

Vol. 39
情報管理広報委員会



「帯状疱疹」の治療は“怠情放心”で

去る5月18日(金)、我が家の庭木の剪定中、左大腿部の内側に“チクリ”と虫から刺されたような痛みを感じた。虫刺されだと思い、2～3日したら治るだろうと放置していた。ところが治るところかビリビリと刺すような痛みと左大腿部内側から左臀部にかけて赤い斑点が広がっており、あわててA診療所を受診した。そこで帯状疱疹と診断されて5月22日(火)に入院となった。

帯状疱疹は、もともと潜伏している水痘、帯状疱疹ウイルスが過労・老化・ストレス等によって免疫機能が低下し、再活性化して発症する。

有床のA診療所は7割が介護療養型である。私は内科の個室に入室した。主治医からは過度な運動はせず安静に過ごすように言われ、トイレ・入浴・食事以外はほとんど臥床していた。入院して10日ほどすると、なんと居心地が良いのだろうと感じはじめた。この感覚から抜け出せなくなるのが怖いと思った。

ビリビリと感電したような痛みと、錐(キリ)がねじ込まれるような痛みで夜も眠れず、何回かの神経根ブロック注射で痛みを緩和した。

夜間“アイタタ〜”と痛みの悲鳴をあげていると、中年の看護師さんが「あんたは若いんだから情けない声をださないで！がんばって！」と言う。若いと言って俺も前期高齢者の端くれだ。もっとやさしく扱ってくれと小さくつぶやく。病棟を見回すと他の入院患者は、ほぼ全員が80歳を越えていると思われる。入院患者で一番若そうなのが俺なのだ、看護師の言葉に妙に納得してほくそ笑む。しかし、やがて悲しき前期高齢者のあがきだと気づく。

深夜トイレに行く途中、廊下の反対側の病室から「お帰りなさい」というしゃがれた女性の声が聞こえる。認知症で寝たきりのM婆さんである。私の足音で反応したのだろう。続いて私が思わず「だだいま〜」と返事をすると、「ごはん食うかい」と声が返ってくる。そういうやり取りが夜間トイレに行く度に同じセリフで応答する。やがてその懐かしい声を聞くためにだけ夜間に廊下を歩いている自分がいる。

意外と入院生活も楽しいものである。私の帯状疱疹の原因は老化・ストレス・過労だと主治医は強調する。“ゆっくりしなさい”“楽にしなさい”と何度も言われる。ならば究極の「帯状疱疹」の治療は“怠情放心”つまり、「すべきことを怠け、何事にも縛られず魂が抜けたような状態」にしておくこと。なんとすばらしい治療法なのだろうか。こんなことをはたして許してくれるのだろうか、と心配しながらも“ま、いいか！”と胸の奥で確信しつつ、あおば病院管理部の方々の顔が浮かんでは消えた。

〈平成30年 7月某日 相談役・顧問 : 古澤 巖〉

第15回 あおば病院患者家族会 総会・レクリエーション開催される

平成30年5月19日 あおば病院患者家族会総会・レクリエーションが開催されました。

毎年、恒例のレクリエーションは玉名市方面で行われ「蓮華院誕生寺本院」にて法話、「蓮華院誕生寺奥之院」で世界一の梵鐘を見学。昼食後は高瀬大橋の花菖蒲鑑賞と歴史博物館「こころピア」見学という内容でした。

当日は晴天にも恵まれ5月とは思えないほどの暑さの中、ご家族同士の交流が図れたと思います。今回、初めて参加されたご家族からも「参加してよかった」「楽しかった」というお言葉をいただきました。

来年も開催いたしますので、参加をご希望される方は家族会事務局までお問い合わせください。



〈あおば病院患者家族会 事務局長 : 花川 僚一〉

第16回 くませいフェスタに参加しました

去る6月7日、熊本パードームにて、第16回くませいフェスタが開催されました。

当病院からも10名を越えるメンバーが参加、みんなで力を合わせ頑張った結果、当病院が所属する赤グループは見事優勝する事が出来ました！

思い出に残る素敵な一日となりました。



第18回 あおばミニ・オープンミーティング開催される

第18回 あおばミニ・オープンミーティング

19年前、少人数の参加者で始まったミーティングも、今年で18回となりました(H28年は熊本地震の影響で未開催)。アルコール依存症からの回復、断酒の継続を目的とし、自助グループ(AA)参加のオープンミーティングです。

「毎年、この5月3日が楽しみなんです！！」そう話し、毎年県外から参加してくださるAAメンバーの方。「また生きて逢えたね！」と、このミーティングの度に1年振りに出逢い、笑って両手を広げハグをしている女性の方々。あおばミニ・オープンミーティングが始まる前の、この光景は毎年変わりません。

また私達スタッフも同様、参加された方々が笑顔で話しているその姿にお逢いでき、嬉しく、また1年の時の流れの速さを感じます。



今回のテーマは『大切な人』でした。会場はほぼ満席。ミーティングが始まると、会話あり賑やかだった会場がしんと静まります。まずは県外からのAAメンバーの発表から始まりました。当日受付を済ませた後、司会者よりランダムにAAメンバーへスピーチを依頼。AAメンバーは自身の体験や断酒への想いを決められた時間内でスピーチしていきます。

昼休憩の前には、今回初の試みでリラックスタイムを設け、職員による絵本セラピーを行いました。絵本を見ながら話を聴いた後、問われたテーマに沿ってグループワークを行います。医療関係の方もAAメンバーも共に参加され、笑い溢れたリラックスタイムとなりました。

その後、午後からは県内AAメンバーの話へと続きました。会場には断酒数日目の方から断酒して数十年の方々まで、若い方から歳を重ねた方まで、様々な方が参加されています。その中で『断酒』という共通の想いをもち集まった仲間と過ごす一日。帰り際に、「いい一日でした。ありがとう。」とスタッフに声を掛けて、仲間と握手をして会場を後にするその笑顔が印象に残りました。参加者の皆さまからのアンケート感想を沢山いただきました。以下文に一部記載いたします。

- ・ 久しぶりの参加で、スタート地点に戻れました。
- ・ 仲間の大切さや断酒継続の難しさ。人間関係の難しさ。慌てないでゆっくりゆっくり頑張っていきます。
- ・ 一日断酒が最初の一步。毎日楽しく過ごしましょう。

仲間と共に生きていくことの方強さを感じた一日でした。

〈看護部：瀬井まり子〉



ペ ッ ト 紹 介

ダルメシアンハムスターの“くろごま（男の子）”です。
 ひまわりの“タネ”が大好きです。
 ただ、飼い主に懐いてくれないのも、悩みの“タネ”です・



〈看護部：坂口 麻衣〉



病院の理念

- 「ひと」 その人らしさを大切に
- 「こころ」 こころのリハビリを通して
- 「和」 地域に和をひろげます

病院の基本方針

- 一、人権の尊厳 ところを病む方々の「ひと」としての尊厳を何よりも尊重し、患者さんやご家族に、やさしさと思いやりの心で接します
- 一、人間的成熟 医療にかかわるプロとしての自覚と誇りを忘れず人間的成熟を目指し、たゆまぬ努力を続けます
- 一、チーム医療 全ての職種の職員は、それぞれの専門性と役割を果たすと共に互いに連携し合い、より質の高い医療サービスを提供します
- 一、地域社会との連携 地域との情報交換を密にし、予防と安らぎの場を提供しながら、社会復帰を通じた生活活動支援に積極的に取り組みます

病院所在地 & アクセスマップ



医療法人社団 明心会

あおば病院

精神科・心療内科・内科

〒869-0513

熊本県宇城市松橋町萩尾2037番地1

TEL : 0964-32-7772

FAX : 0964-32-7333

E-mail : aoba2120@lime.ocn.ne.jp

URL : http://www.aoba-hospital.jp